

NISAでいつ投資する？ 最新9月末までの積立投資
(時間分散)の結果を過去1・3・5年でみると！

※国際投信投資顧問 投信調査室がお届けする、日本版ISAに関する情報を発信するコラムです。

NISA口座を開設したのに、その3分の2がいまだ金融商品を購入していない！ その理由の最多が「投資時期を見極めている」から

10月に入り、NISA(少額投資非課税制度)元年の2014年も残り2カ月半となった。年末にかけてNISAの駆け込み需要を取り込もうと金融機関等のキャンペーンが勢いを増している。ただ、NISA口座を開設してみたものの、実際に投資していない場合が多い。日本証券業協会(日証協)が9月17日(水)に結果を公表した「NISA口座の開設・利用状況」によると、379万口座(主要証券10社)のうち、株式や投資信託に実際に投資した人の割合は8月末時点で33.3%、つまり、3分の2がいまだ金融商品を購入していない事となる(2014年9月22日付日本版ISAの道その72参照～URLは後述[参考ホームページ])。

NISA口座開設者の3分の2がいまだ金融商品を購入していない理由について、日証協が9月16日(火)に結果を公表した「個人投資家の証券投資に関する意識調査」が参考になる。NISA口座で、いまだ金融商品を購入していない方の理由のトップが、『投資時期を見極めている』の28%であり、次いで『投資商品を見極めている』の19%である(2014年7月実施～URLは後述[参考ホームページ])。後者の「投資商品を見極めている」は前回10月6日付日本版ISAその74で取り上げた通りである(下記テーブル参照、URLは後述[参考ホームページ])。そこでは、NISAが始まって実際にどのような投資がされてきて、人気があったかを見た。人気のある投信を買う事は、家電・パソコンや自動車・不動産などでもよく見られている「売れ筋ランキング」で買う事にも近く、参考になり、安心感もあるだろう。

日本の投資信託・月間資金純流入ランキング

(2014年9月における資金純流入の大きいファンド分類*のトップ15)

*分類…Morningstar Global Category

2014年9月

順位	日本の投信全体	順位	日本のNISA向けファンド
1	不動産セクター株(REIT)	1	グローバル債
2	グローバル債	2	不動産セクター株(REIT)
3	米国大型ブレンド株	3	アセットアロケーション柔軟型
4	グローバル株	4	米国債券
5	日本債	5	グローバル株
6	アセットアロケーション柔軟型	6	エマージング債
7	アジアパシフィック債	7	アセットアロケーション積極型
8	アジア株(除く日本)	8	日本債
9	米国債券	9	米国大型ブレンド株
10	エマージング株	10	ユーロ債
11	インド株	11	アジアパシフィック債
12	多種オルタナティブ	12	アセットアロケーション慎重型
13	日本マネー・プール	13	その他オルタナティブ
14	ユーロ債	14	ロング・ショート
15	アセットアロケーション慎重型	15	ハイイールド債

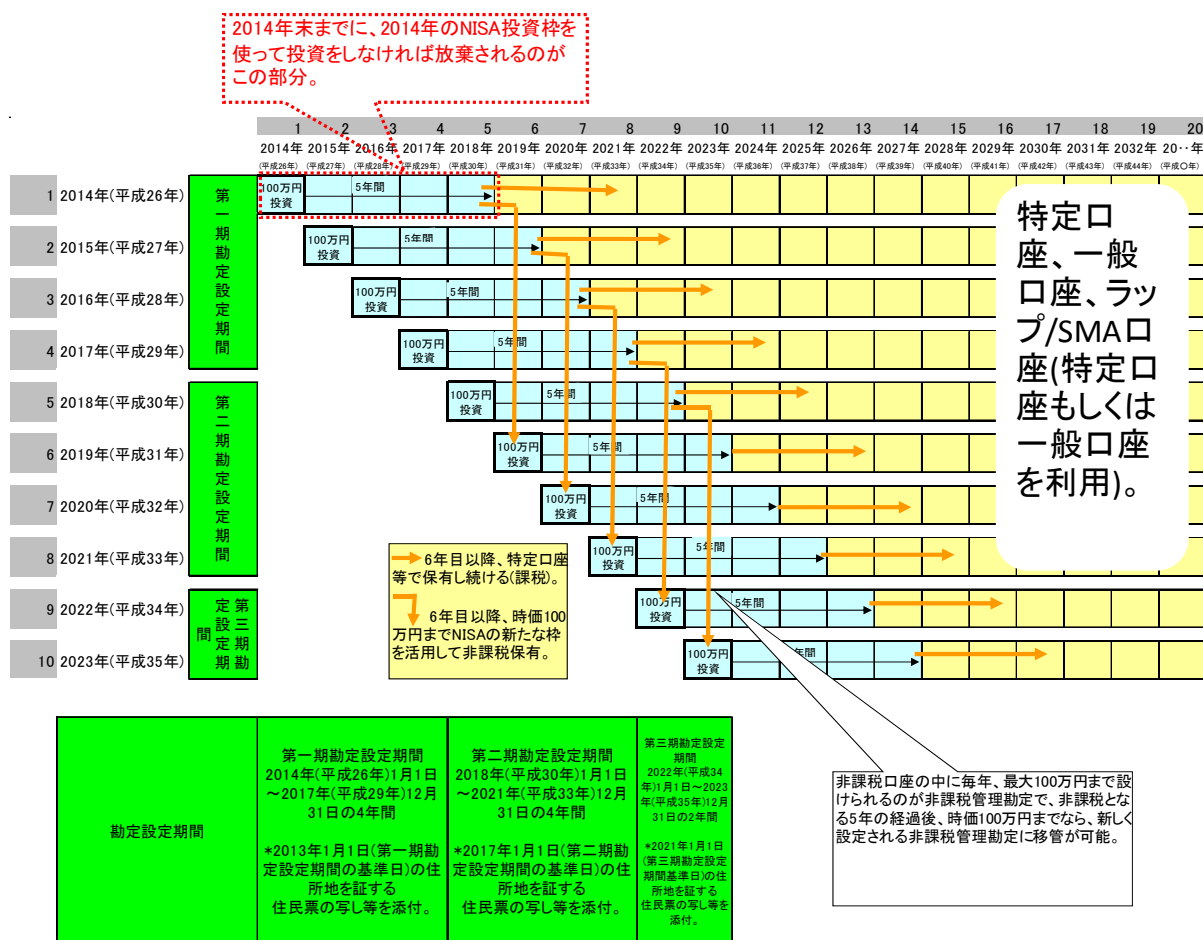
(出所: Ibbotson及びブルームバーグより国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

詳細は、2014年10月6日付日本版ISAの道 その74「<http://www.kokusai-am.co.jp/news/jisa/pdf/141006.pdf>」をご参照。

投資時期がわからないのなら積立投資(時間分散)の選択肢

投資商品が仮に決まっても、投資時期がわからない人は多い。値下がり、もしくは、時間の経過に伴う高品質化が一般的である家電・パソコンや自動車などなら、とにかく待つという選択肢もある。だが、NISA では(不動産も同様)、値上がりする可能性があり、その場合には買い損ねる不安もあろう。

ましてや、NISA の場合、(口座を開設してあっても)投資をしていない人は 2014 年末に 100 万円非課税枠(2014 年分)を放棄する事となる。一部、例えば 66 万円しか投資をしていない人は、2014 年末に 34 万円の非課税枠を放棄する事となる。それも、放棄するのは 2014 年 1 年間だけではなく、翌 2015 年から 2018 年までの 4 年間の非課税枠も含まれるのだ(下記参照)。2015 年からの 4 年もあれば、その間に値上がりする可能性は十分あるだろうし、利息・配当金等が積み上がる可能性は高い。それでは、どうすれば良い？



(出所: 税制改正関連法より国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

NISA は、家電・パソコンや自動車などと違い、金融商品で、積立投資(時間分散)が簡単に出来る。これは不動産(そのもの)も難しい事である。今年 10 坪(マンションなら 1 部屋)、来年 10 坪(同 1 部屋)、その後 10 坪(同 1 部屋)などと買って計 30 坪(同 3 部屋)と言う様な不動産の買い方はまず無理であろう。

だが、これが、NISA の対象となる金融商品であれば可能となり、特に投信では、仮に投資対象が不動産であっても、月 1 万円、年 100 万円などと言う感じで簡単に出来る。その意味で、積立投資(時間分散)は「投資時期の見極め」に悩んでいる人が検討するに値する案となる。そこで、今回は、「投資商品」以上に悩む所であり、「いつ投資する？」という「投資時期」に関する重要な選択肢となる積立投資(時間分散)について取り上げる。

富裕層開拓にこそ積立投資!?

既にNISAで積立投資が意識される事は多く、実際に金融機関が行うNISAキャンペーンで積立投資が提案される場合も少なくない。ここで、積立投資と言うと、月1000円や1万円といった定額で投資するイメージが強い。前述の日証協が公表した「個人投資家の証券投資に関する意識調査」でもNISAで少額積立する場合の毎月の金額は、「千円～5千円未満」59.9%、「5千円～1万円未満」20.8%、「1万円～3万円未満」15.0%となっていた(URLは後述[参考ホームページ])。ただ、大口でも積立投資は可能である。9月22日付ニッキン投信情報には「富裕層開拓にこそ積立投資」という見出しで「積立投資=資産形成層の開拓」という思い込みを持たれている方が多いようです。確かに積立投資は資産形成層にとって価値がある投資ですが、富裕層の方に伝えてあげても喜ばれます。…(略)…。積立投資の特徴を理解していれば、分割投資の特徴もすぐに理解できます。分割している間は値下がりメリットになる点です。](URLは後述[参考ホームページ])と出ている。

ニッキンによれば、「積立投資」とは給料など将来に入るお金を複数回で投資する手法としており、一方で「分割投資」は、預金などの既に手元にあるまとまったお金を何回かに分けて投資する手法としている。どちらも複数回に分けて投資するという点では同じだ。後者で、例えば、NISA口座開設者が、2014年末にかけてNISA口座で年間投資上限額の全額を投資、来年2015年1～3月は新しい非課税枠で年間投資上限額の全額を投資、4～6月は(その年のNISAの非課税枠は使い切ってしまうので)特定口座または一般口座で同額投資するといったケースも想定されよう。投資する予定額を分割し、時間分散をすると言う事である。



この様に、積立投資(時間分散)は多くの方が活用出来る。ただ、そうは言っても、積立投資は、一括投資に比べてリターン/リスクの評価が複雑になる。そこで、以降では、投信の積み立てのリターン/リスクをベンチマーク別に、さらに、最も悩む「やめ時」を含めた投資時期も考慮し、最新9月末にかけ評価する。やや長めだが、以下を参考に投資対象を見極め、積立投資(時間分散)を検討してほしいものである。

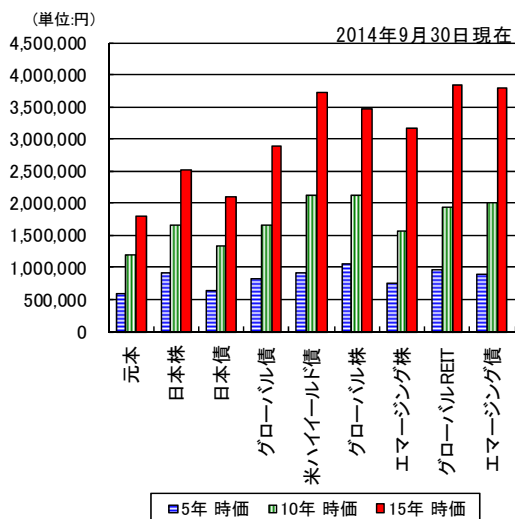
多様な資産を多様な積立期間(5年・10年・15年)と多様な売却時点で確認

検証は、毎月末に1万円ずつ積立購入してきたケース、つまり、毎月1万円定額の積立(ドルコスト平均法)を、投信に使われることの多いベンチマークで見る。NISAの年間投資上限額は100万円で、単純に12で割ると月8.3万円程度だが、ここでは分かりやすく(若者や働く世代にもより現実的な金額である)1万円としている。それを5年、10年、15年という3つの投資期間について見ている。

まず次頁グラフ①は左が2014年9月30日時点の時価で、右が2014年9月30日時点の損益(*手数料等は無視)である。2014年9月30日までの5年積立ではグローバル株が最も良く、10年ではグローバル株と米ハイイールド債、15年ではグローバルREIT、次いでエマージング債、米ハイイールド債が他の資産と比べてリターンが良かった。各種アンケート調査によるNISA経由の投信購入で、人気の投資先とされる分配金の多いREITファンドや、そのREITファンドと並び、NISAも含む日本の投信全体で2014年前半まで人気の高かったハイイールド債ファンドのリターンの高さが示されている。

グラフ①

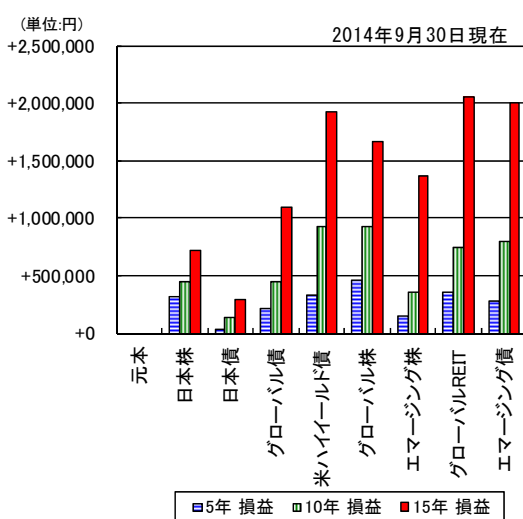
2014年9月30日 まで毎月末に10000円ずつ購入した時の
現在の 時価 *左から投資期間 5年・10年・15年。



(出所: ブルームバーグより国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)
*ベンチマークとはブルームバーグで代表的と思われるものを使用している(以下同じ)。

投資期間 5年・10年・15年

2014年9月30日 まで毎月末に10000円ずつ購入した時の
現在の 損益 *左から投資期間 5年・10年・15年。



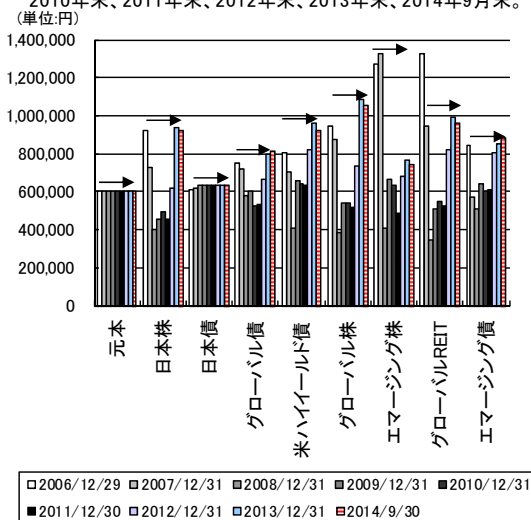
(出所: ブルームバーグより国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

続いて売却時点を変える。「コソコソ投資の最大の悩みどころは『やめ時』だ。時間がたてばたつほど、運用資産の規模は膨らんでいく。」(「コソコソ投資…積立投資のこと～2014年7月6日付日経ヴェリタス」との視点も考慮、売却時点も変えて検証するという事だ。上記の2014年9月末に加え、2013年から2006年の各年末、計9つの時点で見ることにする。下記グラフ②が投資期間5年のもの、次頁グラフ③が10年のもの。下記グラフ②の通り、5年間、毎月積み立てた場合、2006年および2007年末に売却するならばエマージング株とグローバルREITはとても良かった。しかし、リーマン・ショック(2008年9月15日以降)後、大半の資産は損失となり、2012年以降回復、2013年においては、2006年や2007年ほどではないが利益が拡大している。

大手証券会社やネット証券がNISA口座買付けランキングにおいて投信積立部門の売れ筋上位に紹介する事多い日本株を見てみると、2008年から2011年の年末まで損失、2012年によりやくプラス転換、2013年の株高で大きな利益となった(*大手証券会社やネット証券によるNISA口座買付けランキング…URLは後述[参考ホームページ])。

グラフ②

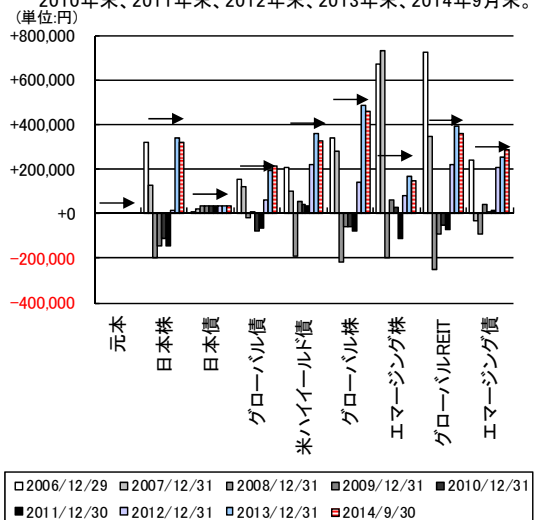
毎月末に10000円ずつ5年間購入した時の 時価
*左から2006年末、2007年末、2008年末、2009年末、2010年末、2011年末、2012年末、2013年末、2014年9月末。



(出所: ブルームバーグより国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

投資期間 5年

毎月末に10000円ずつ5年間購入した時の 損益
*左から2006年末、2007年末、2008年末、2009年末、2010年末、2011年末、2012年末、2013年末、2014年9月末。

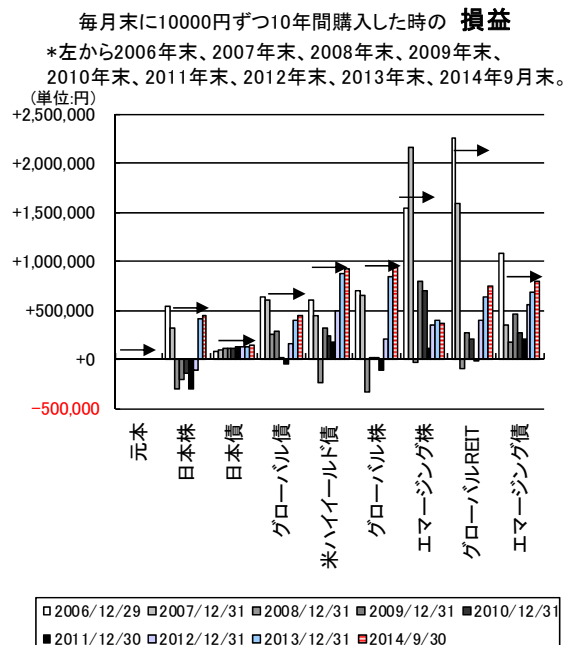
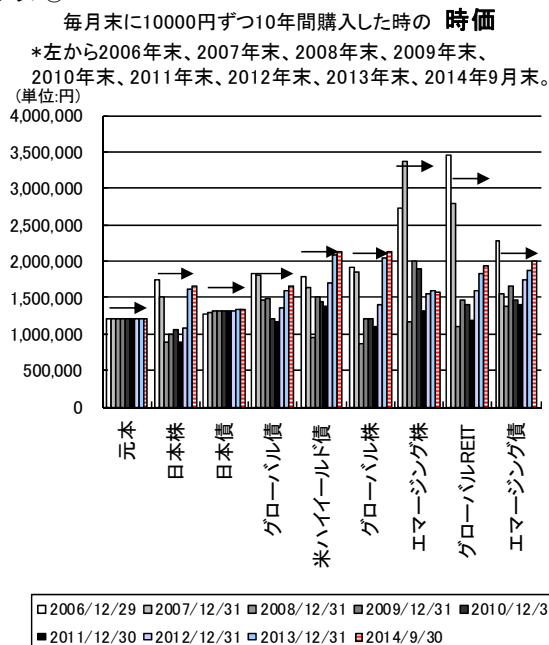


(出所: ブルームバーグより国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

下記グラフ③の10年では、上記5年に比べ全般的に利益が増えてくる。エマージング債は5年では時期によっては利益や損失を出していたが、10年投資すれば、いずれの時期でも利益を出している。グローバル債は利益の安定度を増す。日本株は、2008年から2012年の年末まですべて赤字であったが、2013年に黒字化した。

投資期間10年

グラフ③



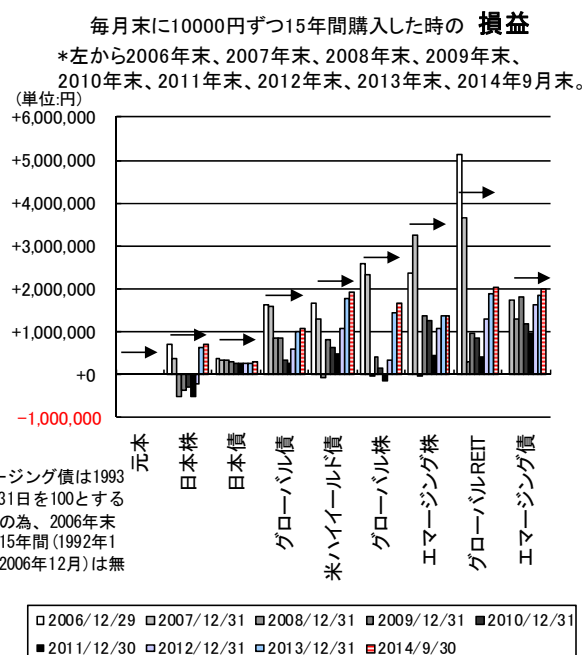
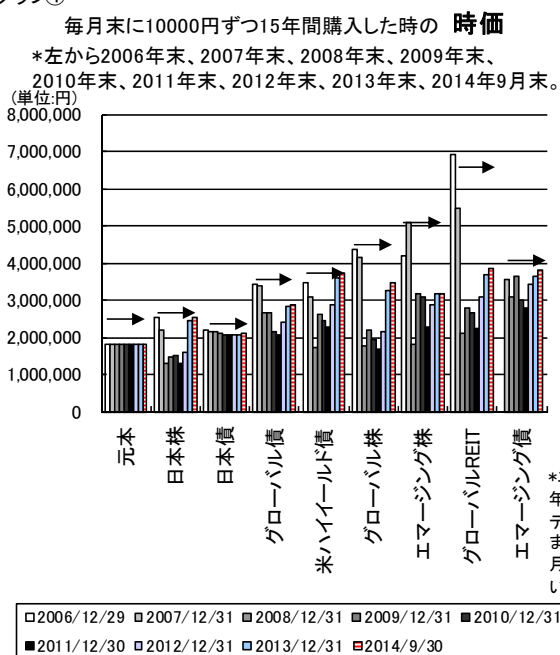
(出所: ブルームバーグより国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

(出所: ブルームバーグより国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

そして下記グラフ④が15年である。大半の資産でリターンが黒字化傾向がより鮮明となっている。エマージング債が安定的に高い利益で、いずれの期間でも利益となった。前述したNISA口座ランキングで投資信託部門・買付件数1位のリートファンド(グローバルREIT)は、エマージング債同様、いずれの期間でも利益となったが、エマージング債を大きく上回る利益の年もあれば、エマージング債より利益の小さい年もあった。グローバル債や日本債も利益こそ小さいが、やはりいずれの期間でも利益で安定的であった。

投資期間15年

グラフ④



*エマージング債は1993年12月31日を100とするデータの為、2006年末までの15年間(1992年1月から2006年12月)は無い。

(出所: ブルームバーグより国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

(出所: ブルームバーグより国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

以上、グローバル REIT やエマージング債・株、米ハイイールド債やグローバル債、日本債などのリターンの高さ、安定性がよくわかった。NISA に投資する人はこれらの資産のどれかにリスクや好み、わかりやすさに応じて投資をしてもいい(*投信なので銘柄は十分に分散されている)。多様な資産と組み合わせる分散投資もいいだろう。繰り返しになるが、若者や働く世代だけではなく、富裕層にいたるまで、しっかりと先述の資産毎リターンやリスクを参考に投資対象を見極め、積立投資(時間分散)を検討してほしいものである。

[参考ホームページ]

2014年9月22日付日本版ISAの道 その72「金融庁・日証協等の調査結果から見えるNISAの実態～NISA口座は727万口座/1.5兆円超(=証券会社463万口座/9200億円+銀行等264万口座/6400億円)、証券会社のNISA口座稼働率は3割、同平均買付額は70万円、投信が7割弱と最大シェアで大きく伸びている。～」…「<http://www.kokusai-am.co.jp/news/jisa/pdf/140922.pdf>」、2014年9月16日付日本証券業協会「個人投資家の証券投資に関する意識調査(概要)」対象は投資経験者(証券保有者)2200人と投資未経験者(20歳以上の証券未保有者)1050人。…「http://www.jsda.or.jp/shiryo/chousa/kojn_isiki.html」、2014年10月6日付日本版ISAの道 その74「NISA元年も残り3カ月、金融機関がNISA駆け込み需要の取り込みを強化する中、NISAで何に投資する? 9月はREITファンドとグローバル債券・株式ファンドが人気!」…「<http://www.kokusai-am.co.jp/news/jisa/pdf/141006.pdf>」、2014年9月22日付ニッキン投信情報「白熱!積立投資ゼミナール第76回 富裕層開拓にこそ積立投資」…「<http://www.nikkinn.co.jp/toushin/backnumber/backnumber2014/20140922/>」、2014年8月29日付金融庁平成27年度税制改正要望項目…「<http://www.fsa.go.jp/news/26/sonota/20140829-9.html>」、大和証券のNISA口座投信積立月間買付ランキング…「<http://www.daiwa.jp/service/isa/ranking.html>」、SBI証券のNISA投信買付金額ランキング…「<https://www.sbisec.co.jp/>」、楽天証券のNISA投資信託 積立設定件数ランキング…「<https://www.rakuten-sec.co.jp/web/market/ranking/nisa/fund.html>」、カブドットコム証券のNISA口座積立総合ランキング…「<http://kabu.com/item/nisa/ranking/tsumitate.html>」、マネックス証券のNISA月間積立契約件数ランキング…「<https://fund.monex.co.jp/rankinglist#NisaMonthlySales>」。

以上
(投信調査室 松尾、窪田)

本資料に関してご留意頂きたい事項

本資料は日本版ISA(少額投資非課税制度、愛称「NISA/ニーサ」)に関する考え方や情報提供を目的として、国際投信投資顧問が作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。なお、以下の点にもご留意ください。

- 本資料中のグラフ・数値等はあくまでも過去のデータであり、将来の経済、市況、その他の投資環境に係る動向等を保証するものではありません。
 - 本資料の内容は作成基準日のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
 - 本資料は信頼できると判断した情報等をもとに作成しておりますが、その正確性、完全性等を保証するものではありません。
 - 本資料に示す意見等は、特に断りのない限り本資料作成日現在の国際投信投資顧問 投信調査室の見解です。
- また、国際投信投資顧問が設定・運用する各ファンドにおける投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。